

2010年3月期 第2四半期決算

説明会用資料

連結決算 実績対比表	頁 1 ~ 2
売上内訳（分析機器事業）	頁 3
販管費、営業外・特別損益 内訳表	頁 4
分析機器事業	頁 5 ~ 9
自動認識事業	頁 10 ~ 12

平成22年3月期 連結決算 第2四半期 前期実績・当期実績比較 及び 通期 前期実績・当期見直し後計画(11月6日公表)比較

(第2四半期累計) 前期実績 / 当期実績

前期実績 対 当期実績	ジーエルサイエンス(株) (分析機器事業)						ジーエルサイエンス(株) (自動認識事業)						ジーエルサイエンス(株) 個別決算 (分析機器+自動認識)					
	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)		当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)		差異		前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)		当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)		差異		前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)		当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)		差異	
	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率
売上高	5,924,776	100.0	4,985,576	100.0	939,200	15.9	368,844	100.0	343,708	100.0	25,136	6.8	6,292,589	100.0	5,324,929	100.0	967,660	15.4
売上原価	4,014,475		3,360,991		653,484		211,292		189,769		21,523		4,224,737		3,546,405		678,332	
売上総利益	1,910,301	32.2	1,624,584	32.6	285,717	15.0	157,551	42.7	153,938	44.8	3,613	2.3	2,067,852	32.9	1,778,523	33.4	289,329	14.0
販売費及び一般管理費	1,697,438		1,681,135		16,303		152,663		144,473		8,190		1,850,102		1,825,609		24,493	
営業利益	212,862	3.6	56,551	1.1	269,413	-	4,888	1.3	9,465	2.8	4,577	93.6	217,750	3.5	47,085	0.9	264,835	-
営業外収益	123,954		30,815		93,139		-		24		24		123,954		30,840		93,114	
営業外費用	30,176		75,353		45,177		-		-		-		30,176		75,353		45,177	
経常利益	306,639	5.2	101,088	2.0	407,727	-	4,888	1.3	9,490	2.8	4,602	94.1	311,528	5.0	91,998	1.7	403,126	-
特別利益	17,560		1,341		16,219		-		-		-		17,560		1,341		16,219	
特別損失	11,729		110,645		98,916		-		34		34		11,729		110,679		98,950	
税引前当期純利益	312,471	5.3	210,391	4.2	522,862	-	4,888	1.3	9,455	2.8	4,567	93.4	317,360	5.0	200,936	3.8	518,296	-
(法人税等)	(76,000)		(8,000)		(68,000)		(-)		(-)		(-)		(76,000)		(8,000)		(68,000)	
(税効果)	(43,564)		(73,016)		(116,580)		(-)		(-)		(-)		(43,564)		(73,016)		(116,580)	
税合	119,564		65,016		184,580		-		-		-		119,564		65,016		184,580	
税引後当期純利益	192,906	3.3	145,375	2.9	338,281	-	4,888	1.3	9,455	2.8	4,567	93.4	197,795	3.1	135,920	2.6	333,715	-
少数株主利益	-		-		-		-		-		-		-		-		-	
当期純利益	192,906	3.3	145,375	2.9	338,281	-	4,888	1.3	9,455	2.8	4,567	93.4	197,795	3.1	135,920	2.6	333,715	-

(当社所有株式割合：65.2%)

テクノオーツ(連結) (半導体事業)						
前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	
千円	%	千円	%	千円	%	
売上高	2,325,597	100.0	1,508,596	100.0	817,001	35.1
売上原価	1,862,461		1,295,172		567,289	
売上総利益	463,135	19.9	213,424	14.2	249,711	53.9
販売費及び一般管理費	472,998		389,074		83,924	
営業利益	9,862	0.4	175,650	11.6	165,788	-
営業外収益	11,196		38,874		27,678	
営業外費用	36,830		12,928		23,902	
経常利益	311,528	5.0	91,998	1.7	403,126	-
特別利益	17,560		1,341		16,219	
特別損失	11,729		110,679		98,950	
税引前当期純利益	317,360	5.0	200,936	3.8	518,296	-
(法人税等)	(76,000)		(8,000)		(68,000)	
(税効果)	(43,564)		(73,016)		(116,580)	
税合	119,564		65,016		184,580	
税引後当期純利益	197,795	3.1	135,920	2.6	333,715	-
少数株主利益	-		-		-	
当期純利益	197,795	3.1	135,920	2.6	333,715	-

2001年(平成13年) 8月 子会社として買収
(当社所有株式割合：100%)

ATAS GL International B.V. (分析機器事業)						
前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	
千円	%	千円	%	千円	%	
売上高	102,362	100.0	49,046	100.0	53,316	52.1
売上原価	51,737		42,722		9,015	
売上総利益	50,625	49.4	6,324	12.9	44,301	89.9
販売費及び一般管理費	43,412		34,841		8,571	
営業利益	7,213	7.1	2,483	5.0	4,730	9.6
営業外収益	12,512	12.2	9,453	19.3	2,959	6.0
営業外費用	1,569		29		1,540	
経常利益	18,237	17.9	11,906	24.3	6,331	12.9
特別利益	-		-		-	
特別損失	-		-		-	
税引前当期純利益	18,237	17.9	11,906	24.3	6,331	12.9
(法人税等)	(-)		(-)		(-)	
(税効果)	(-)		(-)		(-)	
税合	18,237	17.9	11,906	24.3	6,331	12.9
税引後当期純利益	18,237	17.9	11,906	24.3	6,331	12.9
少数株主利益	-		-		-	
当期純利益	18,237	17.9	11,906	24.3	6,331	12.9

2005年(平成17年) 2月 子会社として設立
(当社所有株式割合：95.0%)

GL Sciences, Inc. (USA) (分析機器事業)						
前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	
千円	%	千円	%	千円	%	
売上高	83,403	100.0	71,941	100.0	11,462	13.7
売上原価	51,737		42,722		9,015	
売上総利益	31,666	38.0	29,218	40.6	2,448	7.7
販売費及び一般管理費	26,752		35,078		8,326	
営業利益	4,913	5.9	5,859	8.1	10,772	-
営業外収益	126		12		114	
営業外費用	129		-		129	
経常利益	4,910	5.9	5,847	8.1	10,757	-
特別利益	-		-		-	
特別損失	-		-		-	
税引前当期純利益	4,910	5.9	5,847	8.1	10,757	-
(法人税等)	(3,827)		(193)		(3,634)	
(税効果)	(-)		(-)		(-)	
税合	3,827	4.6	5,654	7.8	10,123	-
税引後当期純利益	1,083	1.3	6,041	8.4	7,124	-
少数株主利益	-		-		-	
当期純利益	1,083	1.3	6,041	8.4	7,124	-

2007年(平成19年) 11月 子会社として設立
(当社所有株式割合：66.7%)

グロース (分析機器事業)						
前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)	当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)	差異	
千円	%	千円	%	千円	%	
売上高	13,184	100.0	14,010	100.0	826	6.3
売上原価	7,919		9,117		1,198	
売上総利益	5,265	39.9	4,892	34.9	373	7.1
販売費及び一般管理費	2,898		3,135		237	
営業利益	2,367	18.0	1,757	12.5	610	25.8
営業外収益	6		300		294	
営業外費用	-		-		-	
経常利益	2,373	18.0	2,058	14.7	315	13.3
特別利益	-		-		-	
特別損失	-		-		-	
税引前当期純利益	2,373	18.0	2,058	14.7	315	13.3
(法人税等)	(696)		(1,107)		(411)	
(税効果)	(-)		(-)		(-)	
税合	696	5.3	951	6.8	904	6.9
税引後当期純利益	1,677	12.7	671	4.8	1,006	60.0
少数株主利益	-		-		-	
当期純利益	1,677	12.7	671	4.8	1,006	60.0

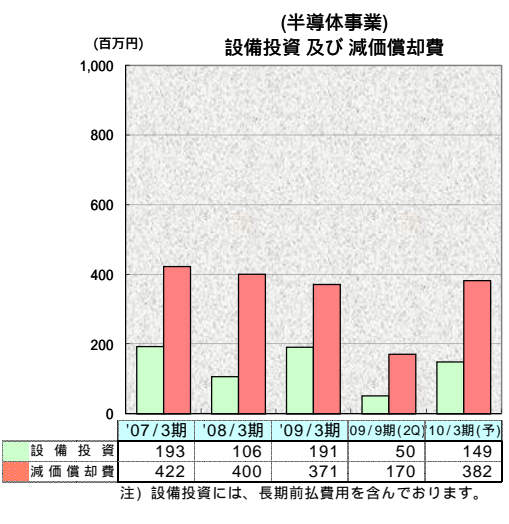
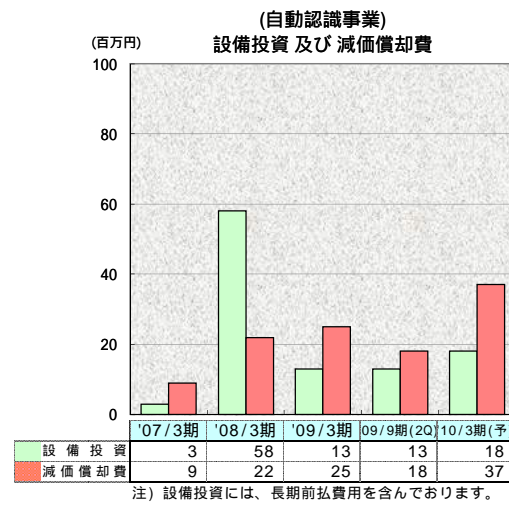
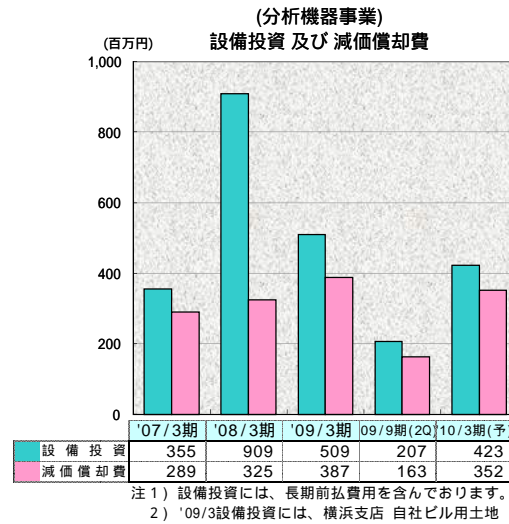
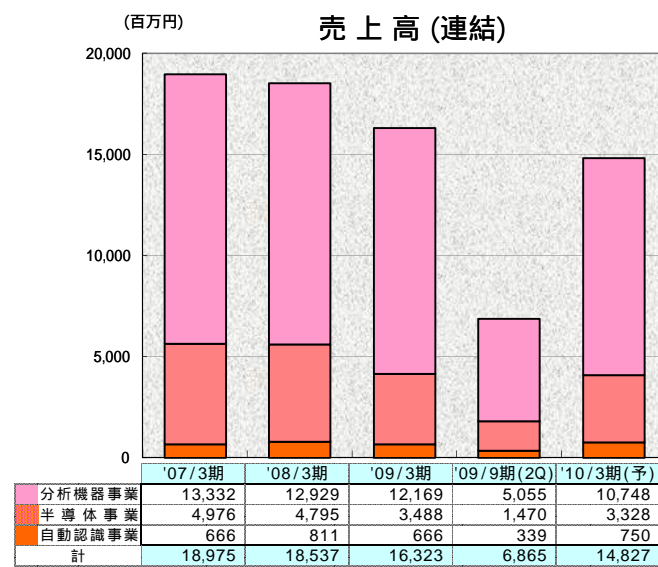
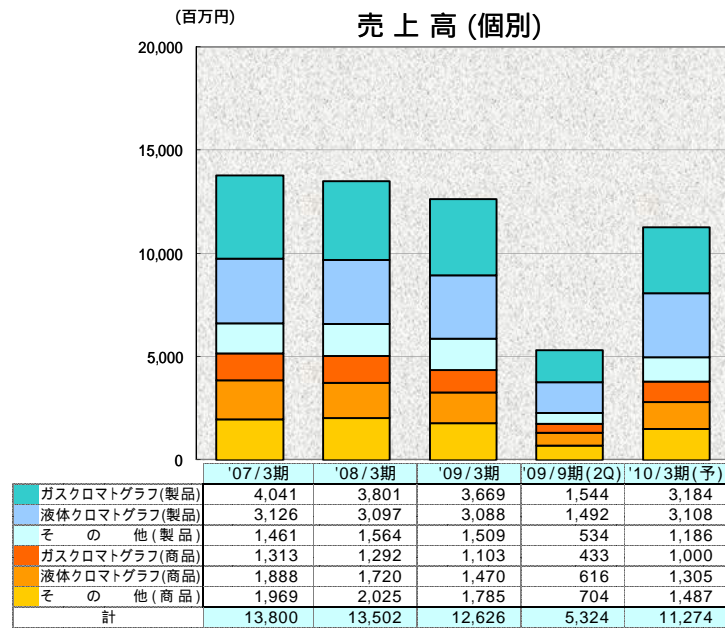
2007年(平成19年) 7月 島津(香港)有限公司と
共同で販売合併会社を上海に設立
(持分法適用関連会社のため、当社連結決算に、
下記数値の30.0%が影響します。)

(第2四半期累計) 前期実績 / 当期実績

前期実績 対 当期実績	島津技測 (分析機器事業)						連結決算					
	前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)		当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)		差異		前期累計実績 第2四半期 (平成21年3月期)		当期累計実績 第2四半期 (平成22年3月期)		差異	
	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率
売上高	111,914	100.0	254,320	100.0	142,406	127.2	8,695,736	100.0	6,865,376	100.0	1,830,360	21.0
売上原価	81,826		167,652		85,826		6,073,357		4,810,147		1,263,210	
売上総利益	30,087	26.9	86,667	34.1	56,580	188.1	2,622,379	30.2	2,055,228	29.9	567,151	21.6
販売費及び一般管理費	47,433		76,099		28,666		2,390,998		2,283,284		107,714	
営業利益	17,345	15.5	10,568	4.2	27,913	-	231,380	2.7	228,055	3.3	459,435	-
営業外収益	87		113		26		79,662		72,847		6,815	
営業外費用	155		2		153		73,228		93,145		19,917	
経常利益	17,413	15.6	10,678	4.2	28,091	-	237,814	2.7	248,353	3.6	486,167	-
特別利益	-		-		-		-		2,157		2,157	
特別損失	-		-		-		292,833		104,611		188,222	
税引前当期純利益	17,413	15.6	10,678	4.2	28,091	-	55,019	0.6	350,807	5.1	298,788	-
(法人税等)	(-)		(-)		(-)		(84,233)		(12,563)		(71,670)	
(税効果)	(-)		(-)		(-)		(31,723)		(64,855)		(96,578)	
税合	-		-		-		115,957		52,292		168,249	
税引後当期純利益	17,413	15.6	10,678	4.2	28,091	-	170,976	2.0	298,514	4.4	127,538	-
少数株主利益	-		-		-		108,100		53,754		54,346	
当期純利益	17,413	15.6	10,678	4.2	28,091	-	62,876	0.7	244,760	3.6	181,884	-

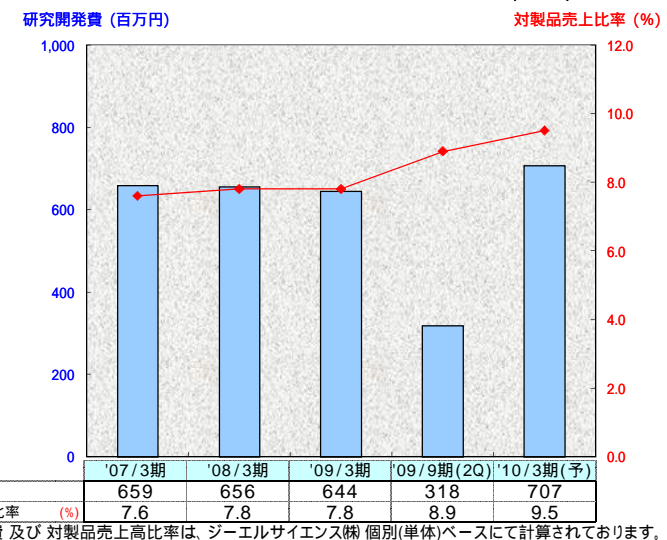
(通期) 前期実績 / 当期見直し後計画 (11月6日公表)

前期実績 対 当期見直し後計画	ジーエルサイエンス(株) (分析機器事業)						ジーエルサイエンス(株) (自動認識事業)						ジーエルサイエンス(株) 個別決算 (分析機器+自動認識)						テクノオーツ(連結) (半導体事業)					
	前期通期実績 (平成21年3月期)		当期通期見直し後計画 (平成22年3月期)		差異		前期通期実績 (平成22年3月期)		当期通期見直し後計画 (平成22年3月期)		差異		前期通期実績 (平成21年3月期)		当期通期見直し後計画 (平成22年3月期)		差異		前期通期実績 (平成22年3月期)		当期通期見直し後計画 (平成22年3月期)		差異	
	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率	千円	%	千円	%	増減額	増減率
売上高	11,959,982	100.0	10,524,000	100.0	1,435,982	12.0	679,519	100.0	750,000	100.0	70,481	10.4	12,626,048	100.0	11,274,000	100.0	1,352,048	10.7	3,595,666	100.0	3,428,597	100.0	167,069	4.8
売上原価	8,038,766		7,094,681		944,085		380,653		420,071		39,418		8,405,965		7,514,752</									

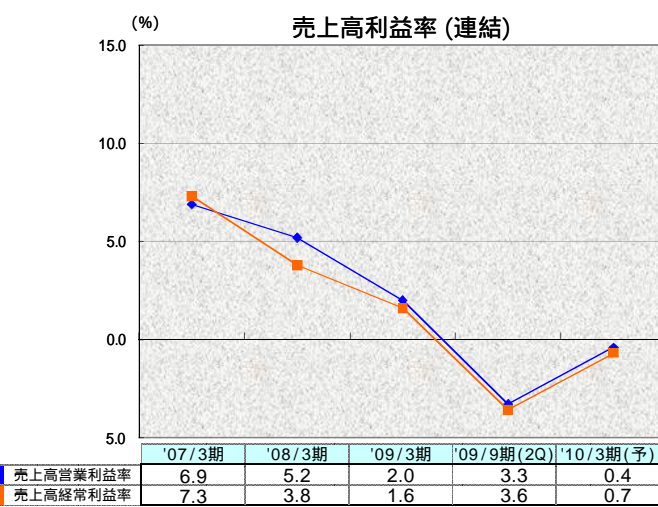
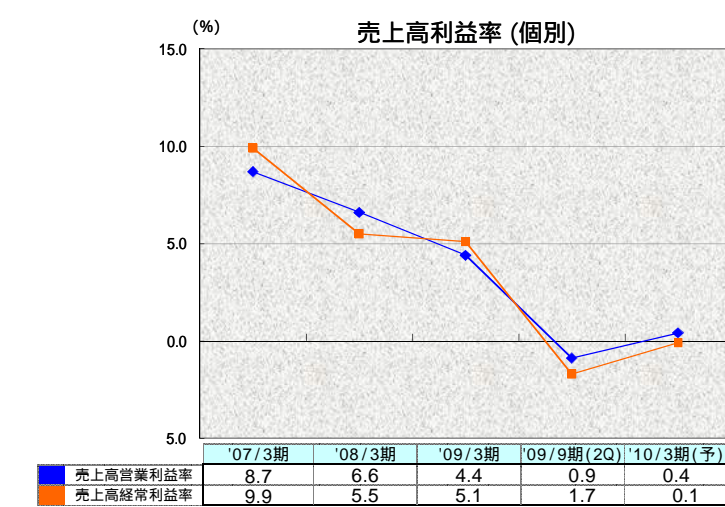
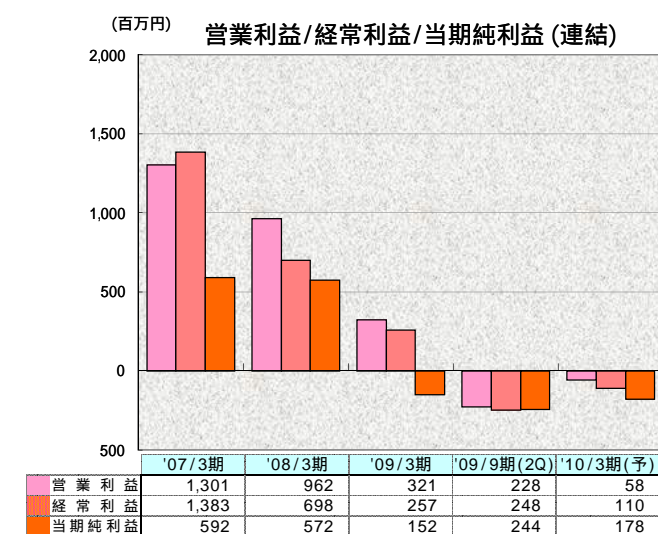
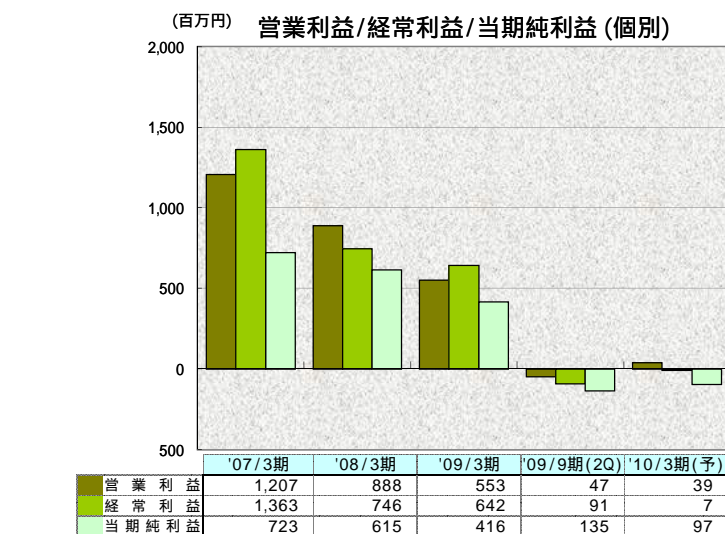


注1) 設備投資には、長期前払費用を含んでおります。
 注2) '09/3設備投資には、横浜支店 自社ビル用地建物241百万円を含んでおります。当支店の新社屋は、'09/5に完成いたしました。
 注3) '08/3期は、埼玉県入間市内の総合技術センターに東棟を新設しております。

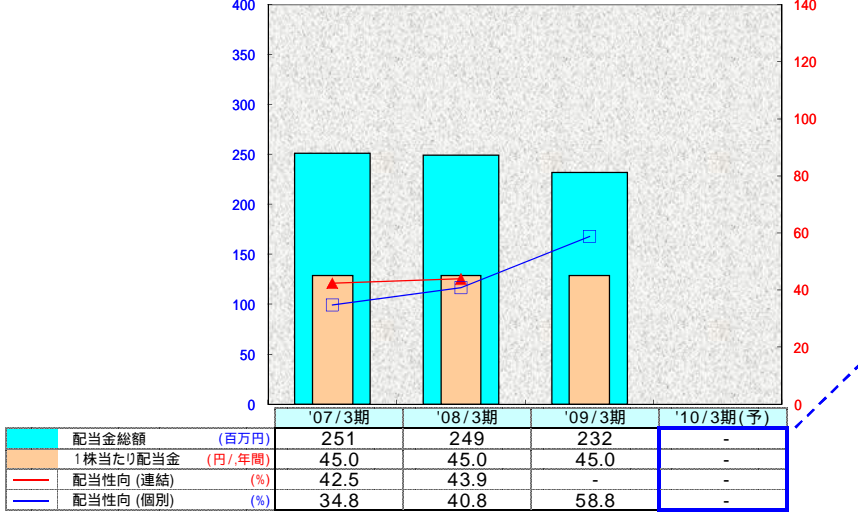
研究開発費及び対製品売上比率(個別)



注意) 上記試験研究費及び対製品売上高比率は、ジェルサイエンス(株)個別(単体)ベースにて計算されております。



配当金の状況



'10/3期(予)の配当につきましては、現時点において、合理的な業績予想の算定が困難であることから、未定とさせていただきます。今後は業績の回復に努め当グループの事業環境の推移を見極めた上で配当予想額の開示が可能となり次第、速やかに開示いたします。

(参考データ) 島津技進(上海)商貿有限公司

島津技進(上海)商貿有限公司は、当社が30%出資している上海(中国)の関連会社で、中国市場における分析機器および理化学機器用消耗部品・前処理装置・関連消耗部品の販売及び関連するアフターサービスを目的としております。

	07/12期	08/12期	09/12期(1-6月)	09/12期(1-12月)
売上高	25	365	254	530
売上総利益	9	117	86	20
営業利益	26	4	10	26

'07/12期は、2007年6月に設立し、10月より営業活動を開始したため、3ヶ月の実績数値となります。当連結決算は、持分法により上記数値の出資比率30%を乗じております。

会社別実績及び計画数値

	ジェルサイエンス株式会社								ジェルサイエンス株式会社(個別)				テクノオウズ株式会社(連結)				ATAS GL Inernational B.V.				GL Sciences, Inc. (USA)				株式会社グロース				連結決算			
	分析機器事業				自動認識事業																											
	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)	'08/3期	'09/3期	'10/3期(予)	'10/3期(予)
売上高	12,690	11,959	4,985	10,524	814	679	343	750	13,502	12,626	5,324	11,274	4,927	3,595	1,508	3,428	205	172	49	149	136	160	71	238	10	29	14	31	18,537	16,323	6,865	14,827
売上総利益	4,138	3,921	1,624	3,429	377	298	153	329	4,515	4,220	1,778	3,759	934	614	213	570	97	93	25	78	52	60	29	91	5	12	4	10	5,592	4,999	2,055	4,510
営業利益	795	546	56	21	93	6	9	17	888	553	47	39	54	264	175	136	4	14	9	4	12	5	5	25	3	5	1	3	962	321	228	58
経常利益	681	635	101	25	64	6	9	17	746	642	91	7	3	356	149	136	2	11	11	0	12	5	5	25	2	6	2	3	698	257	248	110
税引前当期純利益	844	648	210	134	64	6	9	17	909	655	200	117	20	717	155	152	2	11	11	0	12	5	5	25	2	6	2	3	877	124	350	235
当期純利益	550	409	145	114	64	6	9	17	615	416	135	97	23	783	158	160	2	11	11	0	10	2	6	17	1	3	0	2	572	152	244	178

第43期 第2四半期 売上内訳(分析機器事業)

対象期間：2009年4月～2009年9月

(単位：千円)

期間:4～9月	第42期 第2四半期	第43期 第2四半期	差額	伸び率
装置売上	2,108,464	1,562,246	546,218	25.9%
消耗売上	3,816,312	3,423,330	392,982	10.3%
売上 合計	5,924,776	4,985,576	939,200	15.9%
自社製品売上比率	63.7%	65.8%	2.1%	

装置実績(自社・他社)

(単位：千円)

期間:4～9月	第42期 第2四半期	第43期 第2四半期	差額	伸び率
自社 装置	1,140,282	808,737	331,544	29.1%
他社 装置	968,183	753,509	214,674	22.2%
装置 合計	2,108,464	1,562,246	546,218	25.9%

消耗品実績(自社・他社)

(単位：千円)

期間:4～9月	第42期 第2四半期	第43期 第2四半期	差額	伸び率
自社 消耗品	2,635,941	2,470,999	164,942	6.3%
他社 消耗品	1,180,371	952,331	228,040	19.3%
消耗品 合計	3,816,312	3,423,330	392,982	10.3%

第43期 第2四半期 個別決算(分析機器+自動認識)
販管費・営業外損益・特別損益 内訳

単位：千円(単位未満 切捨て)

(販管費)	前期	当期	増減額		(前期)	(当期)	増減額	増減率			
					第42期 2Q 平成20年9月期	第43期 2Q 平成21年9月期			前期	当期	
運賃荷造費	54,154	51,021	△3,133	売上	6,292,589	5,324,929	△967,660	△ 15.38	(営業外収益)		
広告宣伝費	66,425	64,770	△1,655	売上原価	4,224,737	3,546,405	△678,331	△ 16.06	受取利息	4,541	12,669
貸倒引当金繰入	1,852	0	△1,852	売上総利益	2,067,852	1,778,523	△289,328	△ 13.99	受取配当金	58,433	3,245
役員報酬	60,449	62,349	1,900	販管費	1,850,102	1,825,609	△24,492	△ 1.32	為替予約評価益	32,042	0
給料手当	557,904	575,106	17,201	営業利益	217,750	△47,085	△264,836	△ 121.62	為替差益	0	4,950
賞与	44,231	35,227	△9,003	営業外収益	123,954	35,790	△88,164		雑収入	28,937	14,924
賞与引当金繰入	147,170	125,735	△21,434	営業外費用	30,176	80,303	50,126		計	123,954	35,790
退職給付引当金繰入	26,998	80,185	53,186	経常利益	311,528	△91,598	△403,127	△ 129.40	(営業外費用)		
役員退職給与引当金繰入	5,989	6,208	218	特別利益	17,560	1,341	△16,219		支払利息	17,470	23,102
法定福利費	98,967	98,423	△544	特別損失	11,729	110,679	98,950		手形売却損(割引料)	75	0
福利厚生費	14,583	12,739	△1,843	税引前当期利益	317,360	△200,936	△518,296	△ 163.32	為替予約評価損	0	52,960
賃借料	76,593	70,428	△6,165	法人税等	76,000	8,000	△68,000		為替差損	10,376	0
減価償却費	62,296	58,003	△4,292	法人税等調整額	43,564	△73,016	△116,580		雑損失	2,254	4,240
公租公課	25,465	21,497	△3,968	当期利益	197,795	△135,920	△333,715	△ 168.72	計	30,176	80,303
交際費	4,323	3,966	△357	売上総利益率	32.86%	33.40%	0.54%		(特別利益)		
旅費交通費	75,306	66,028	△9,278	営業利益率	3.46%	-0.88%	-4.34%		貸倒引当金戻入益	17,560	1,341
通信費	19,224	17,923	△1,300	経常利益率	4.95%	-1.72%	-6.67%		固定資産売却益	0	0
試験研究費	330,050	318,115	△11,935						企業立地助成金受入益	0	0
支払手数料	54,097	50,999	△3,098						投資有価証券売却益	0	0
車両費	12,269	8,110	△4,159						計	17,560	1,341
消耗品費	39,635	37,076	△2,559						(特別損失)		
その他	72,109	61,693	△10,416						固定資産除売却損	1,222	1,995
計	1,850,102	1,825,609	△24,492						投資有価証券売却損	115	0
									投資有価証券評価損	10,392	96,112
									貸倒引当金繰入	0	12,572
									役員退職慰労金	0	0
									計	11,729	110,679

分析機器事業

平成 22 年 3 月期 (第 43 期上期) 決算説明会 資料



【9月2日～4日 2009分析展 in 幕張メッセ】

1. 第 4 3 期上期業績について

第 43 期 (平成 22 年 3 月期) 上期の分析機器事業の売上実績は 4,985,576 千円で、上期計画 5,084,000 千円に対して、計画達成率 98.1%、計画差異▲98,423 千円、前年同期比 84.1%という結果でした。

売上総利益については計画 1,669,280 千円に対して 1,624,584 千円で達成率 97.3%、前年同期比 85.0%、また営業利益については計画 98.340 千円に対して 56,551 千円という結果でした。

前期に引き続き、当期営業方針を「“イナートファミリーシリーズ”を始めとする自社製品の積極的な販売」に据え、営業活動を展開してまいりました。

しかしながら、自動車・石油化学・半導体などの市場では、受注回復の兆しが厳しく、また製薬関連市場では組織の統廃合が進むなど、依然として厳しい状況で推移し、計画達成までには至りませんでした。

製品群別状況といたしましては、固相抽出装置・部品、システム、バイオ他社装置、アフターサービス、LC 充填カラムは、前年同期比より伸びを示しましたが、その他の製品群につきましては、苦戦いたしました。

2. 主力製品群の動向について

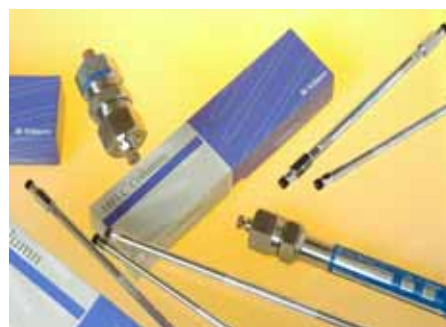
当社が世界に誇る“イナートファミリー”

- ・イナートシル(Inertsil)：LC(液体クロマトグラフ)充填カラム
- ・イナートキャップ(Inertcap)：GC(ガスクロマトグラフ)キャピラリーカラム
- ・イナートセップ(Inertsep)：試料前処理用固相カートリッジ



イナートシル(液体クロマトグラフ用充填カラム)

“ハイスピードセパレーションHPLCカラム 2 μ mの高耐圧カラム”のリリースと、不活性処理技術を駆使した“ODS-4シリーズ”の製品意識の高揚を図り、売上を伸ばすべく製薬ユーザー等へのPR強化に取り組みました。その結果、売上高としては、前期比+1.8%の伸びと成りました。



イナートキャップ(ガスクロマトグラフ用キャピラリーカラム)

InertCapは、“MSタイプ”や“Pure-WAX”など、特徴ある製品が徐々に市場に受け入れられて参りました。また、従来の分離状態を維持し、迅速な測定結果を必要とするユーザー向けカラムとして、“InertCap FastGC”カラムを9月にリリースいたしました。上期売上に貢献できず、前期比伸びは得られませんでした。



イナーテセップ（試料濃縮用固相カートリッジ）

当期初にリリースしました K-solute（ケイソルート）は順調に立ち上がっております。
また、食の安全に関わるニーズとユーザーを的確につかみましたが、他社との熾烈な価格競争の影響を受け、自社製品は伸びたものの、固相製品全体では前期比 0.2%となりました。



主要装置動向

● ガスクロマトグラフ GC-4000

官庁関連の予算執行時期の遅れとユーザー設備投資の買い控えなどにより、前期比 18.8%の結果でした。



【におい嗅ぎシステム OP275 + GC-4000】

● 水分析関連装置 パージ&トラップ 5000J

前期からの環境関連ユーザー、特に水質関連ユーザーの低迷が継続しており、前期比 22.9%と低迷いたしました。

しかし、分析追加項目の予測もあり、回復傾向が見受けられます。



【パージ&トラップ 5000J + オートサンプラー】

- 固相自動抽出装置アクアトレース799

アクアトレース 699 をリニューアルし、アクアトレース 799 を投入いたしました。以前にも増した高機能性とコンパクト化が功を奏し、受注引き合い共に順調に推移しております。売上は、前期比+13.1%となりました。



【アクアトレース 799】

- 液体クロマトグラフ GL-7400

LC 本体の市場は、前期に引き続き価格競争が激烈を極めております。また、大学官庁の予算執行の遅れも大きく影響しました。その結果、前期比 23.3%と低迷いたしました。



【液体クロマトグラフ GL-7400】

- 全自動キャニスター濃縮導入システム

AERO(アエロ)タワーシステム ACS-2100

自治体の研究機関、分析機関からの引き合いは増加しておりますが、予算執行(入札)の遅れが影響しております。(当期8セット予定)



【全自動キャニスター濃縮導入システム AERO(アエロ)タワーシステム ACS-2100】

3. 海外市場の動向

海外市場全般においては、予算締め付けによる買い控えの影響があらわれ、前期比 6.5%（イナートシルは 0.01%）となりました。

しかし、当初インド市場は苦戦いたしておりましたが、重点セミナーなどの効果が現れ、+2.5%と成りました。

また、島津製作所との合併会社「島津技迺（上海）商貿有限公司」は、着実に売上を伸ばし、売上計画達成率 104.3%、利益面でも黒字となりました。

Inertsil、および中国市場向け安価版 GL 製 LC カラム WondaSil も市場に浸透し、前期比+18.8%と実績を上げております。

4. 下期の市場動向と見込みについて

国内では、予算執行の遅れや絞込み。また海外では、急激な円高による益々の買い控えが予測され、大変厳しい環境です。

下期におきましても、「イナートファミリーシリーズ」をはじめとする自社製品の販売活動を積極的に展開します。

特に、分析展で発表いたしました、より不活性処理を施した液体クロマトグラフ用充填カラム“ Inertsil ODS-4 シリーズ”及び、モノリス技術を LC カラムに採用した新製品“ MonoClad（モノクラッド）”の、製薬・医薬のユーザーを中心としたシェアアップに向け、拡販活動を行います。

一方、装置関連につきましては、新型液体クロマトグラフ“ハイスピードセパレーションシステム LC800”と固相自動化装置“アクアトレース 799”の着実な PR 活動を行います。

特に“ハイスピードセパレーションシステム LC800”は、従来の液体クロマトシステムから、極限までデッドボリュームを抑えた「高速・高分離・高感度」を特長とした一体型 HPLC システムです。

性能を実感いただくには、客先持ち込みデモが有効です。有効引き合い獲得のためにも、積極的に実行いたします。

下期の主な活動と致しましては、「アカデミックキャンペーン」「イナートシルキャンペーン」による消耗品の拡販活動により利益確保につなげていきます。

社内活動といたしましては、業績向上に向け、今期 7 月から総合技術本部、及び生産本部の精鋭スタッフの強力なバックアップと派遣による業績向上に向けた「SS（セールス・サポート）作戦」を展開いたしております。このことにより、営業員のスキルアップ、技術に基づいた製品紹介、ニーズに応じたセミナー実施など、徐々に目的以上の効果が現れております。下期においても引き続き「SS 作戦」を継続し、業績向上に向け行動いたします。

以上

平成 22 年 3 月期 (第 43 期上期) 決算説明会 資料

第 43 期上期売上計画・利益計画達成概況について

売上実績は、当事業本部の中核を占めるアクセスコントロール分野（機械警備関連・タイム情報関連など）が企業等の設備関連予算縮減により厳しい状況にて推移しています。特にシステム部門への影響が大きく、見込まれていた入退室管理システム導入案件の多くが実施遅延や棚上げ状態となり計画を割り込むことになりました。

一方、デバイス部門では、アクセスコントロール分野の主要取引先からの受注は前期比で大きな伸びは無かったものの比較的安定した受注を得たことと、新規分野の情報通信分野での受注が活発化したことにより計画を達成することが出来ました。

この結果、上期の実績は 343,708 千円 となり、計画(350,000 千円)達成率では 98.2%、前期比では減収(6.8%) となりました。

また、利益面では、デバイス関連で比較的利益率の高い完成系製品群に属する壁付型リーダの大型案件の前倒納入などがあり、比較的好調だったことや経費節減に注力したことが奏効し、営業利益は計画の 3,190 千円 に対し 9,465 千円 となり、前期比でも 4,577 千円の増益(+93.6%) にすることが出来ました。

第 43 期下期売上予想

現時点での有力情報を総合すると、下期では 400,000 千円超 の売上が予測されています。見込み通りに進捗できれば、通期計画の達成は可能であると考えています。

しかし、アクセスコントロール分野の設備関連予算縮減の動きは継続する見込みで、状況が好転するには今少し時間を要すると思われれます。従って、システム部門で主力の入退室管理システムやこれに連動するシステム計上案件の売上が、計画の先延べや凍結などにより、予想を割り込む可能性も無いとは言えません。

また、今下期に期待した賃貸マンション向け居室管理用電池駆動錠（IC タグをキーとして利用）の量産納入が市場の低迷により、計画のずれ込みが予想され、通期計画達成に対し余裕の無い状況です。

上記の通り下期も非常に厳しい環境にあると判断していますが、従来市場における緩やかな回復状況や新分野での自社開発品の拡販努力、受託開発の取り込みなどを積極的に展開し計画達成に邁進して行きます。

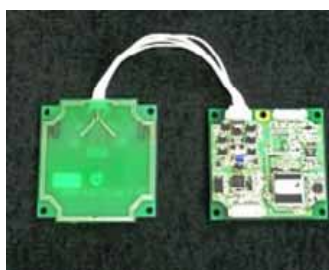
主力製品動向

入退室管理装置 XRC シリーズ

主力の XRC100 シリーズにおいては、大型案件は鳴りを潜めている状況となっています。しかしながら、本製品の特長である小規模案件における優位性がようやく理解され始めたのか、新規の引き合いが少しずつではありますが集まりつつあります。また、ある建設会社を通じてホテル向けのシステムとして採用されたこともあり、徐々に回復する見込みであると考えています。



機器組込みユニット



【NMxx シリーズ】
マルチプロトコルリーダユニット
入退室・勤怠管理用などに利用



【NM06・7 シリーズ】
年間 3 万台の販売実績の
主力製品

当社の主力である入退室管理関係、勤怠管理関係、警備機器関係においては、それぞれの顧客における数量の低迷はあるものの、依然として安定した引き合いをいただいております。市況の回復とともに売上も増大していくものと考えております。

注目される分野としましては、本年度から本格的に提供を開始したデジタルサイネージ市場（情報通信関連の電子広告）が挙げられます。同分野における RFID 機器の導入はゆるやかに進められていましたが、ここに来て大きな市場となり、当社でも大型案件を複数受注するに至りました。さらに本市場は拡大の状況を見せつつあり、これらの需要に対応していくためのコスト対応や技術革新が求められています。当社としても積極的な取り組みを図っていく方針です。

これに対し、ゲーム・アミューズメント分野においては需要が大きく低迷し、その回復の動向も見えない状況です。本分野においては、しばらくの我慢が必要と考えます。

機器組込分野において、今下期からの上市にて期待した賃貸マンションの居室用電池駆動錠【協業先；計電産業】(ICタグをキーとして利用)は賃貸マンション市場の低迷により、なかなか計画した納入数量が実現されません。しかしながら、本製品に関する賃貸マンション業者やその管理会社などからの引き合いは活発で有ることや、本製品の市場として当初は予想をしていなかった、警備会社やホテル業界からの引き合いが複数来ていることを総合すると、賃貸マンションなど不動産設備関連市況が回復した段階では強力な製品に育ってくる手応えを感じています。

本製品は、株式会社計電産業が特許を持つロック機構の電池駆動錠のRFID回路部、制御回路部を当社が設計製造し計電産業でメカニカルな処理をして製品化したもの。
販売は両社が有し、それぞれの販売ルートにて拡販します。



新規開発品

今期より市場に投入するハンディリーダライタ、来期に向けて製品開発をすすめるOS搭載のプログラマブルな壁付型リーダライタ等、付加価値を向上した製品をリリースしていくとともに、量産効果によるコストダウンを図った製品を市場に提供していきます。



小型ハンディリーダライタ
XR03U-TI

下期より実験的に提供を開始した。
各社にて応用システム開発の取り組みが進んでいる。



開発中のOS搭載
プログラマブルリーダライタ
来期より展開を図っていく製品であるが、今年度末より実験的に提供を開始する予定。